

CKJS だより



卒業式特集号
校長 岡野真弓

ckjs-office@ckjs.org
Tel; (859) 422-1246

卒園式・卒業式が挙行了されました

3月14日（土）午前「幼稚部卒園式」午後「卒業式」が挙行され、園児26名、卒業生44名（小学部23名、中学部20名、高等部2名）が巣立っていきました。次年度の小学1年生は30名、中学部1年生は21名、高等部1年生は19名ですので、ほとんどが本校の上級学部へ入学することになります。

園児、児童、生徒、皆が大変立派な態度で感動しました。卒園、卒業おめでとうございます。



齊藤理事長様、西野保護者会長様、卒業生のありがたい祝辞をありがとうございました。「毎日1%の努力が数万倍にもなる」、「夢が力になる」、心に沁みました。

別れの言葉（小学六年）

本日はお忙しい中、私たち六年生のためにこのような温かい卒業式を開催して頂き、ありがとうございます。卒業生を代表して、心より御礼を申し上げます。

私たち六年生は、本日セントラルケンタッキー日本人補習校小学部を卒業します。

六年前の入学式、大きなランドセルを背負って緊張して入学した私たちを、先生方や上級生が優しく迎えてくれました。

僕は幼稚園の年長組から7年間、補習校に通いました。補習校での楽しみは、休憩時間に体育館で友達と遊んだり、図書館で日本語の本を借りたり、カフェテリアで友達とお昼ご飯を食べたりすることでした。

補習校ではたくさんの方に参加しましたが、その中でも運動会が一番楽しみにしていました。縄跳び、大玉送り競争など、他の学年と交流しながら、協力して同じ目的に向かって頑張ることができました。

最近では、ヘザー・ヘンソンさんという本の作者に特別授業をして頂き、「頑張れば夢が叶う」という貴重な体験も聞かせて頂きました。

補習校で僕自身が一番大変だったのは、現地校のイベントやスポーツと、補習校の勉強を両立させることでした。日曜日の午前中や空いている時間を見つけては、宿題に取り組み、スポーツも現地校のイベントもできるだけ楽しめるように努力しました。

平日はアメリカの現地校に通い、土曜日に補習校で日本語や日本の文化、歴史を学び、友人と触れ合うことはとても貴重な体験でした。書道、百人一首、学習発表会、校長先生とお茶会など、補習校での経験はすべてが私たちの宝物です。

私たちは今日、小学部を卒業して、中学部に進級します。これまで私たちを支え、導いて下さった先生方、本当にありがとうございました。また、どんなときも温かく見守り、毎週お弁当を作って送り出して下さったお父さん、お母さん、ありがとうございました。

中学生になると、現地校と補習校の両立がさらに難しくなると思いますが、友人と助け合い頑張っていきますので、これからも温かく見守って下さい。本当にありがとうございました。

令和八年三月十四日

小学部卒業生代表 グリーン大輝

御礼の言葉（小学五年）

六年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

私たちは、アメリカで生活しながら、この日本人補習校で日本語や日本の文化を学んできました。

毎週土曜日に集まり、日本語で話し、勉強し、笑い合える時間は、私たちにとても特別な時間です。

私たちは六年生のみなさんと、この補習校でいろいろな思い出を作ることができました。その中でも昼休みに体育館で一緒に鬼ごっこをしたり、ドッジボールをしたりしたことを、私たちは忘れません。

運動会では、幼稚園から高校生まで集まる中で、六年生のみなさんが、どのチームにもやさしく応援をされていて、私たちもあんな六年生になりたいなと思いました。

ここで学んだことや、仲間との思い出は、きっとこれからもみなさんの力になると思います。

私たち五年生も、みなさんのように、下級生にやさしく、どの学年とも仲良くできる六年生になれるようがんばります。六年生のみなさんのこれからのご活躍を、心から応援していきます。改めて、ご卒業おめでとうございます。

令和八年三月十四日

小学部 五年 福田悠七



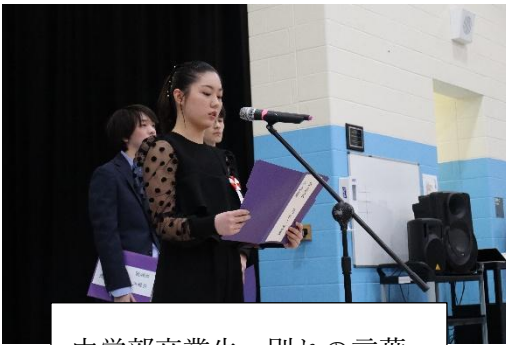
記念品贈呈



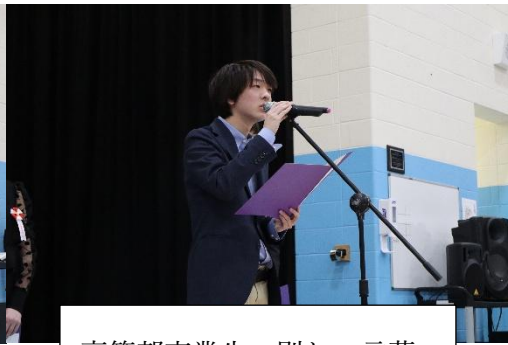
在校生 送る言葉



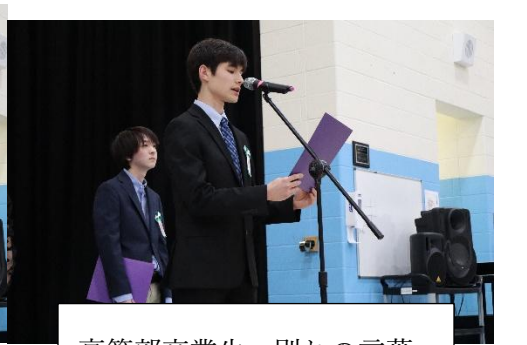
小学部卒業生 別れの言葉



中学部卒業生 別れの言葉



高等部卒業生 別れの言葉



高等部卒業生 別れの言葉

別れの言葉(中学三年)

本日は、私たち卒業生のために、このようなすばらしい卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。また、お忙しい中ご出席くださいましたご来賓の方々、先生方、保護者の皆様、在校生の皆さんに、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

平日はそれぞれの現地校へ行き、土曜日には補習校へ行く毎日。また、私たちの学年は、中学生で渡米してきたクラスメイトが多かったり、小学生時代と比べて精神年齢が大きく変化したことでより複雑になった人間関係。さらに、友人関係、英語力、二つの言語の勉強の両立。悩み事を数えだしたらきりがない、先の読めぬ予測不能な3年間でした。その中で、補習校を去っていくクラスメイトがいて、友達を見送るといふ、日本ではあまり経験したことのないことに立ち会うこともありました。特に、年に数回あるオープンスクールでは緊張する数少ない日で、いつもは文句を言ったり、友達とコソコソ話したり文句を言ったりしてながら授業を受けている。私たちが緊張する数少ない日でクラスメイトが、いつもより圧倒的に口数が少なく、心なしか背筋が伸びているの。たクラスメイトを見て苦笑することもありました。

日本に住んでいた時には想像もしていなかったこのアメリカ生活で、唯一日本語が通じる補習校という場所は、心のよりどころになっていたのかもしれない。今までの当たり前が通用しない現地校と、年を追うごとに難易度が上がっていく補習校の授業をこなす多忙な日々の中で、私たちが作り出したり、見つけたものは、一人一人のこれからの人生によりよい影響をもたらすものだと思います。

最後になりましたが、毎週指導してくださった武藤先生、デック先生、ピーターソン先生、心から感謝申し上げます。毎日何かしらに頭を悩ませていた私を支えてくれたお父さん、お母さん、そして妹。ありがとう。今日ここで人生の一区切りをしますが、まだまだ私たちは周りに支えられながら、巻き込みながら成長していきます。もう一度、私たちの補習校での生活を支援してくださった全ての方に、心より感謝を申し上げます、これを答辞といたします。

令和八年 三月十四日

中学部卒業生代表 佐古田 千代

『卒業生へのお祝いの言葉』

冬のケンタッキーのブルグラスが茶色から少しずつ鮮やかな緑に変わり始め、春を感じられる時期になりました。本日無事卒業式を迎えられた卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。中学部在校生を代表し、心からお祝い申し上げます。

先輩方は、アメリカでの生活や現地校との両立という大変な環境の中で、この補習校に通い続けてこられました。その努力と積み重ねは、本当にすばらしいものだと思います。

私たちは、そんな先輩方の姿から多くのことを学びました。そして、これからは私たちが在校生がこの補習校を支えていきたいと思います。

これからそれぞれの道へ進まれる皆さんの未来が、明るく実りあるものとなることを心より願っています。

最後になりましたが、先輩方の今後のご活躍とご健康を、在校生一同、心より願い、送辞とさせていただきます。本日はご卒業、誠にありがとうございます。

令和八年 三月十四日

中学部二年代表 廣田萌俐

